

## 岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

令和3年4月1日改正  
(令和3年4月1日適用)

### ① 第三者評価機関名

NPO 法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと

### ② 施設・事業所情報

名称	加納西認定こども園	種別	幼保連携型認定こども園	
代表者(園長)	日比 利栄	定員(利用人数)	105名 (117名)	
所在地	〒500-8462 岐阜市加納神明町 4-12			
TEL	058-213-0013	ホームページ	<a href="https://www.wakokai.ed.jp/kanouni/">https://www.wakokai.ed.jp/kanouni/</a>	
<b>【施設・事業所の概要】</b>				
開設年月日	平成22年4月1日			
経営法人・設置主体(法人代表)	社会福祉法人和光会 (理事長 山田豪)			
職員数	常勤職員 : 29名	非常勤職員	: 9名	
専門職員	(専門職)			
	保育教諭	30名	看護師	1名
	保育士	1名	管理栄養士	1名
	調理師	3名		
施設・設備 概要	(居室数)		(設備等)	
	保育室	6室	調理室・食品庫・調乳室・沐浴室・ 遊戯室・事務室・職員室・休憩室・ 園児用トイレ3カ所・職員用トイレ3カ所 バルコニー・倉庫・屋上	

### ③ 理念・基本方針 (※転載)

#### 理念

- ・一人ひとりを大切にし、生きる力を育みます。
- ・地域に根差し、子育ての拠点を目指します。
- ・意欲と知恵と工夫により、子どもの幸せを実現します。

#### 基本方針

- ① 五感を刺激する豊かな環境をつくり、一人ひとりを大切にし子どもの生きる力を育む。
- ② 地域の人や多世代との交流を通じ、基本的な生活習慣や態度を学び、思いやりの心、感謝の心を育てる。
- ③ 創意工夫により教育・保育をすすめ、子ども、保護者、地域に信頼されるよう努める。
- ④ 地域に根差した子育て支援を展開する。

⑤ 施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

- ・ 絵画・体操・ダンス・英語・サッカーなど外部講師の指導で子どもの能力や興味を引き出す知育活動や野外自然活動、本物に触れる体験、木育、食育、モンティソーリ思想を取り入れた保育など心豊かに育つための多彩なプログラムを用意し、理念を実践している。
- ・ 子育て支援、親子教室、園庭開放、子育て相談等、地域ニーズに合った活動を展開し、地域の子育ての拠点となり、学校との交流や生徒の体験学習にも貢献している。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年8月18日（契約日） ～ 令和5年3月10日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（前回 平成29年度）

⑥ 総評

◇特に評価の高い点

【子ども主体の保育実践】

美術館、科学館、城址公園など公共交通を利用して出掛ける園外活動や、自然環境の中での遊びを通して子どもの力を引き出す「モリノス」での体験活動を取り入れ、子どもの主体性を尊重し伸ばす保育が行われている。モンティソーリ教育や木育に取組み、そのために職員が研修を受け、さらにより良い保育を模索する姿勢を評価したい。国の配置基準より多い保育士を置き、職員間で子ども一人ひとりの成長プロセスを喜び、保育理念、方針を丁寧に実践している。

【園長のリーダーシップ】

前任の園長から引き継いだ時にコロナ感染が始まり、地域交流の自粛や行事の縮小、環境整備等で感染症対策に職員が一丸となって尽力し、コロナ禍でも出来ることを工夫する創造力と結束力へと指導力を発揮している。園長が率先して保護者や子どもたちとコミュニケーションを取り、安心感や信頼関係を築いている。また、常に職員には「子どもにとって今一番何が必要か、大切か」を問いかけ、職員一人ひとりの得意なことが活かせる保育指導で人材育成に努めている。

【充実した食育への取組】

栄養バランスに配慮し、行事食は子どもが喜ぶ盛り付けの工夫で給食を提供している。管理栄養士がクラスを巡回し食べる様子を観察したり感想を聞き、子どもが理解できる説明で食の学びにつなげている。庭園の樹木は実のなる木が多く、身近で季節や地産地消を知るこ

とができ、菜園づくり、収穫物でのクッキング、大豆からの味噌作りなど食育の推進に力を入れている。

#### 【前回の評価結果についての取組】

前回の改善点に、保護者向け掲示版の場所の工夫が挙がっていたが、掲示版に代わるドキュメンテーションやポートフォリオ、動画、ホームページ、園だより等、多様な伝達手段で保護者への情報がより迅速に提供されている。また、駐車場についての課題には根気よく対応し、保護者の声に真摯に向き合っている。

#### ◇改善を求められる点

ドキュメンテーションやポートフォリオ、動画等の導入は、子どもの成長を可視化でき、職員、保護者の情報共有として有効に活かされている。写真撮影は、その場その時の子どもの感動を共有することを大切にし、職員は状況を見計らいながら撮っている。保護者の理解を得ながら、子どもの成長を共に共有する媒体として今後も活用されたい。

事業運営や保育実践の自己評価を通して、さらに高みを目指し課題を見つける姿勢が見て取れた。今後、多様化するニーズへの対応や少子化時代に向け、選ばれる園としての実践に期待したい。

#### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

・今回、福祉サービス第三者評価を受け、自分たちの保育や園の運営について、新たな気づきを得ることが出来ました。良い評価を頂いているところは、継続していきながら、子どもを中心とした保育実践を丁寧に行っていきたいと思えます。又、課題を見つけ、職員間で話し合うという姿勢が保育の質を高めていくことにつながると思えます。外部の方に見て頂くことは、私たちにとって、とてもプラスになりました。社会情勢が目まぐるしく変わっていく中、子どもの最善の利益を考え、進化し続けていきたいと思えます。

#### ⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。